

ガンバ大阪と三菱ケミカルが実施する循環型システム実験試験に シンギが資源循環で貢献

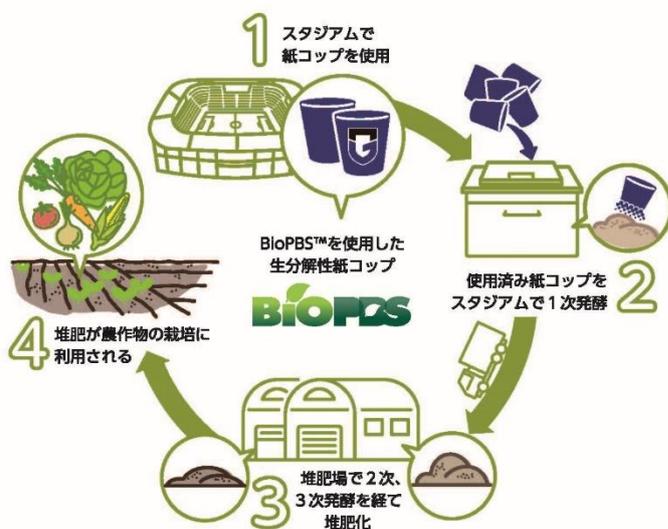
株式会社シンギ（本社：広島市中区）は、三菱ケミカル株式会社が実施する循環型システム実証実験に参画します。

株式会社シンギは、食品パッケージの企画・製造・販売を行うパッケージソリューションカンパニーです。メーカー機能と商社機能を兼ね備え、全国15か所に拠点を置き、スピーディーな対応を心がけております。環境配慮型の商品も数多く取り揃え、リユースやリサイクルの仕組み作りにも積極的に取り組んでいます。今回、当社より本実証実験の提案を行い、紙コップのデザイン、スタジアムへの供給を担うこととなりました。

<実証実験の内容について>

今般の取り組みは、三菱ケミカル株式会社が株式会社ガンバ大阪と連携し、三菱ケミカルの生分解性樹脂「BioPBS™（バイオPBS™）」を使用した紙コップを起点とするコンポストによる循環型システム実現に向けた実証試験です。

ガンバ大阪が主催する2022年のJ1リーグの試合会場にて、使用された紙コップを回収し、スタジアムに設置された食品残渣発酵分解装置で食品残渣物などと一緒に1次発酵します。1次発酵物は、リサイクルセンターにて2次、3次発酵を行ったのち、野菜の栽培に利用できる堆肥に生まれ変わります。このような紙コップを起点とした循環型システムの実証実験を行います。



紙コップを起点とする循環システム



スタジアムで使用される『Gスマイルカップ』

またこの取り組みは、大阪府が2019年1月に行った「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」および同宣言に基づき2021年8月に設置され、吹田市も参画している「おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム」における、プラスチックの資源循環を推進する活動の一環として実施されます。

当社ではこれからもSDGsに対し積極的に取り組む企業を応援し、自身も環境に配慮した事業活動の実践により、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

▼本実証実験に参加する企業・団体（順不同）

大阪府、吹田市、株式会社ガンバ大阪

▼本件における協力企業（順不同）

旭洋株式会社、日本マタイ株式会社、東洋アルミエコープロダクツ株式会社、株式会社日本HP、株式会社マルタカ、株式会社シンギ

【ご参考】

BioPBS™は、三菱ケミカル株式会社が開発、基本特許を有し、三菱ケミカル株式会社とタイ PTT Global Chemical 社が折半出資する PTT MCC Biochem Company Limited が製造する植物由来の生分解性樹脂で、自然界の微生物によって水と二酸化炭素に分解されるため、自然環境への負荷が少ない樹脂素材です。また、他の生分解性樹脂に比べ、低温ヒートシール性・耐熱性・柔軟性などで優れた性能を有しています。

通常、紙コップの内側には耐水性のためにポリエチレン（非生分解性樹脂）でラミネート加工が施されています。そのラミネート材料に BioPBS™を用いることで、紙コップ全体がコンポスト設備や土壌で分解可能になります。

